

稲作技術情報 No. 3

令和3年7月2日
鳥取県産米改良協会

■中干しの最後のチャンスです。

- ・目標茎数を確保したら直ちに中干しを行うこと。中干開始が遅れると、籾数が増えすぎ、くず米が増えます。
- ・7～10日程度を目安に、田んぼに立って靴底が軽く沈み、スタスタ歩けるくらいまで干すこと。
- ・中干し終了後はいきなり湛水せず3日程度走り水を行い、以降は間断灌漑を行うこと。
- ・適正な中干しにより、根の健全化、倒伏防止、適正籾数確保につなげ、品質・食味の向上を図りましょう。

■「平年並～高い気温が予想されます」

→穂肥の適正施用により、品質食味の安定化を図りましょう。

- ・登熟期の肥切れは白濁粒の増加や粒張りの低下を助長し、品質を著しく低下させます。
- ・「コシヒカリ」「星空舞」「ひとめぼれ」は早期倒伏の防止に留意しながら稲の状態にあわせてきちんと、倒伏に強い「きぬむすめ」は時期が来れば積極的に、穂肥を施用しましょう。

I 天気概況

1 天気予報

中国地方 1 か月予報 (7月3日から8月2日までの天候見通し)

令和3年7月1日
広島地方气象台発表

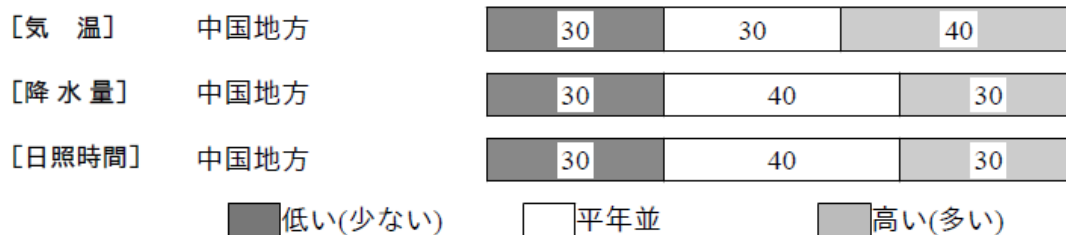
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

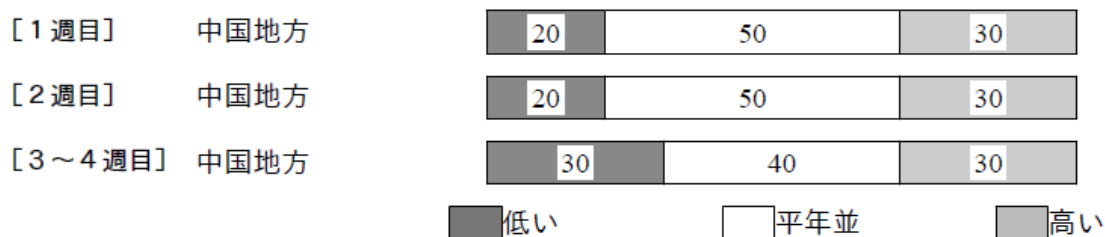
期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月	:	7月 3日(土)～	8月 2日(月)
1週目	:	7月 3日(土)～	7月 9日(金)
2週目	:	7月10日(土)～	7月16日(金)
3～4週目	:	7月17日(土)～	7月30日(金)

中国地方 3か月予報

(7月から9月までの天候見通し)

令和3年6月25日
広島地方気象台発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

7月 期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

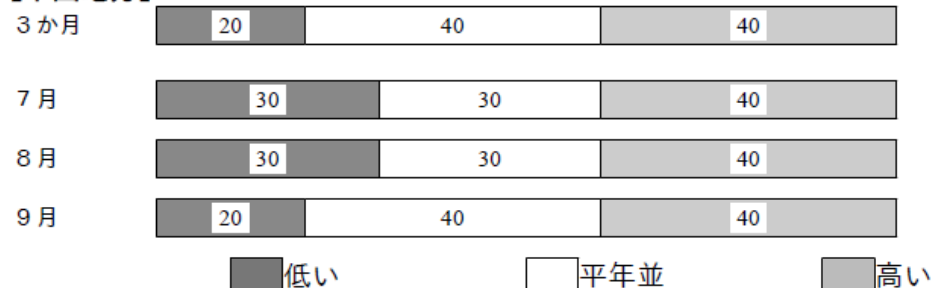
8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

9月 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

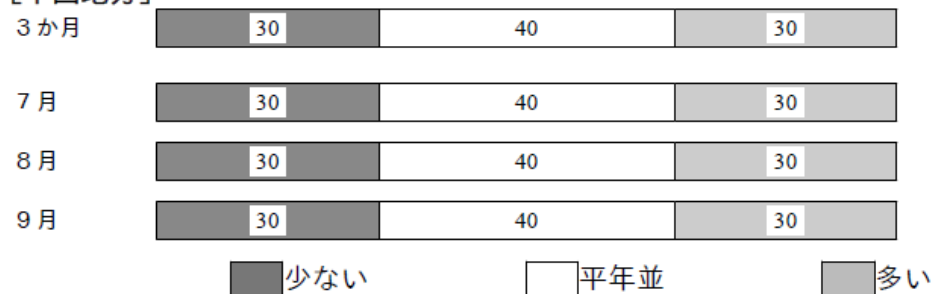
<<気温>>

[中国地方]



<<降水量>>

[中国地方]



<次回発表予定等>

1か月予報：毎週木曜日 14時30分 次回は7月1日

3か月予報：7月21日(水) 14時

2 気象経過

(鳥取)

時期	気 温(℃)						日照時間		降水量	
	令和3年			平年差			3年 (hr)	平年 比	3年 (mm)	平年 比
	平均	最高	最低	平均	最高	最低				
4上	12.3	18.6	5.9	1.0	1.6	0.0	76.1	137	26.5	70
中	13.3	19.5	6.7	0.2	0.7	-0.8	64.4	110	36.5	111
下	14.5	20.8	8.8	-0.5	-0.1	-0.6	74.5	118	41.5	133
5上	16.3	21.8	10.6	-0.8	-1.1	-1.0	62.1	96	34.0	100
中	19.6	24.9	15.8	1.8	1.5	3.4	31.6	49	62.0	132
下	19.1	25.0	14.2	-0.3	-0.1	-0.1	70.7	98	50.0	119
6上	22.3	28.4	16.4	1.6	2.3	0.4	78.6	128	26.0	87
中	22.7	26.3	20.0	0.7	-0.6	2.0	24.5	47	95.0	204
下	22.9	28.0	18.5	-0.5	0.2	-1.3	50.9	127	4.5	6

(茶屋)

時期	気 温(℃)						日照時間		降水量	
	令和3年			平年差			3年 (hr)	平年 比	3年 (mm)	平年 比
	平均	最高	最低	平均	最高	最低				
4上	8.3	15.9	1.0	0.6	1.5	-0.1	78.1	138	21.0	49
中	9.4	17.2	1.1	-0.2	0.8	-1.5	67.5	115	23.5	55
下	11.5	19.3	3.8	-0.2	0.9	-0.8	66.5	107	31.0	86
5上	12.9	19.3	5.5	-1.2	-1.4	-2.0	66.8	105	42.0	111
中	17.4	22.0	13.5	2.7	1.0	5.2	24.8	40	83.0	173
下	16.0	22.6	9.9	-0.1	0.2	0.0	73.0	105	38.0	82
6上	18.9	26.2	11.5	1.5	2.7	-0.2	80.7	141	21.0	61
中	19.4	23.3	16.6	0.5	-1.0	2.5	20.0	41	141.0	239
下	19.3	25.3	14.4	-1.1	0.1	-2.0	40.0	121	33.0	33

・6月上旬は、平年に比べて気温は高く、日照時間は多く、降水量は少なかった。中旬は、気温はやや高く、日照時間は少なく、降水量は多かった。下旬は、気温は低く、日照時間は多く、降水量は少なく推移した。

Ⅱ 生育概況、幼穂形成期予測

○現地ほ場

- ・生育は全体に順調で、目立った病害虫の発生は見られていない。
- ・茎数確保は順調で、中干しに入っているほ場が多い。草丈は短い傾向。

○作況調査ほ場

<5月11日移植> ひとめぼれ・コシヒカリ

- ・ひとめぼれは、7月1日に幼穂形成期を迎えた(過去5年平均比平年並、過去10年平均比2日早い)。
葉齢は平年並であり、茎数は多く、草丈は長く、葉色は平年並であった。
- ・コシヒカリは、葉齢は平年より進んでおり、茎数はやや多く、草丈はやや長く、葉色は平年並であった。

<5月25日移植> コシヒカリ・星空舞・きぬむすめ

- ・コシヒカリは、葉齢は平年よりやや遅れており、茎数は多く、草丈および葉色は平年並であった。
- ・星空舞は、葉齢は平年並であり、茎数は多く、草丈はやや短く、葉色は平年並であった。
- ・きぬむすめは、葉齢は平年並であり、茎数は多く、草丈は短く、葉色はやや淡い傾向であった。

令和3年度 水稻生育状況(農業試験場 作況田)

5月11日移植(4月16日播種)

調査項目		ひとめぼれ			コシヒカリ		
		本年	平年	差・比	本年	平年	差・比
苗乾物重(mg/本)	田植時	17.5	14.8	120	17.8	15.9	112
葉 齢 (葉)	田植時	3.3	3.3	0.0	3.2	3.3	-0.1
	15日後	6.0	5.9	+0.1	6.0	5.7	+0.3
	25日後	7.8	7.7	+0.1	7.7	7.5	+0.2
	35日後	10.0	9.5	+0.5	9.8	9.3	+0.5
	45日後	11.1	10.8	0.3	10.9	10.5	+0.4
茎 数 (本/m ²)	田植時	67	67	100	57	57	100
	15日後	67	70	96	58	60	97
	25日後	184	196	94	147	161	91
	35日後	404	339	119	352	299	118
	45日後	573	484	118	471	440	107
草 丈 (cm)	田植時	10.4	11.3	92	10.8	12.6	86
	15日後	24.5	19.4	126	27.9	22.0	127
	25日後	26.2	23.3	112	29.9	26.9	111
	35日後	34.5	32.8	105	35.8	34.8	103
	45日後	53.5	46.7	115	51.7	48.6	106
葉 色 (SPAD値)	田植時	24.4	26.2	-1.8	23.3	24.2	-0.9
	15日後	32.0	31.2	+0.8	30.3	29.1	+1.2
	25日後	36.8	37.1	-0.3	34.5	36.3	-1.8
	35日後	40.4	38.6	+1.8	39.4	36.5	+2.9
	45日後	37.4	37.0	+0.4	35.1	37.0	-1.9

5月25日移植(5月5日播種)

調査項目		コシヒカリ			星空舞			きぬむすめ		
		本年	平年	差・比	本年	平年	差・比	本年	平年	差・比
苗乾物重(mg/本)	田植時	16.7	15.8	106	16.2	15.8	103	14.6	15.6	94
葉 齢 (葉)	田植時	3.6	3.3	+0.3	3.6	3.4	+0.2	3.2	3.1	+0.1
	15日後	6.2	6.1	+0.1	6.2	6.3	-0.1	6.1	5.8	+0.3
	25日後	8.3	8.1	+0.2	8.4	8.1	+0.3	8.2	7.8	+0.4
茎 数 (本/m ²)	田植時	57	57	100	57	57	100	67	67	100
	15日後	77	79	97	90	96	94	102	97	105
	25日後	245	211	116	246	211	117	263	242	109
草 丈 (cm)	田植時	10.9	12.4	88	10.5	12.3	85	14.8	12.4	119
	15日後	25.6	24.8	103	20.6	23.9	86	21.1	23.8	89
	25日後	32.5	30.3	107	28.0	28.7	98	28.9	29.2	99
葉 色 (SPAD値)	田植時	29.8	24.5	+5.3	29.1	25.5	+3.6	30.1	23.8	+6.3
	15日後	32.7	33.9	-1.2	34.0	34.4	-0.4	32.1	32.0	+0.1
	25日後	39.7	35.5	+4.2	39.2	34.9	+4.3	36.8	35.4	+1.4

注) 平年値は直近5年間の平均値(四捨五入)。ただし星空舞は2018年から栽培のため直近3年間の平均値。

Ⅲ 病害虫発生状況

〇いもち病

・6月30日現在、葉いもちの広域発生は確認されていない。しかし、7月1日発表の気象1か月予報によると、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、本病の発生に好適な条件となるため、いもち病の伝染源となる置き苗の処分を徹底するとともに、ほ場の見回りを行って、早期発見に努め、発生状況に応じ適切に対応する。

・水稲いもち病発生予測システム(ブラスタム)の判定結果

ブラスタムによる葉いもちの感染好適条件又は準感染好適条件は、6月13日から26日にかけて広域で断続的に出現した(表1)。

表1 ブラスタムによる感染好適日の出現状況

日付	鳥取	青谷	岩井	智頭	倉吉	塩津	米子	境	茶屋
6/10	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/11	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/12	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/13	—	○	—	○	—	●	—	—	—
6/14	—	○	—	●	—	—	●	—	—
6/15	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/16	—	—	●	●	—	●	●	—	—
6/17	—	—	—	—	—	●	—	—	—
6/18	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/19	—	●	—	●	●	—	—	—	○
6/20	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/21	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/22	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/23	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/24	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/25	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/26	○	—	●	●	—	—	●	—	—
6/27	—	—	—	—	—	—	—	—	○
6/28	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/29	●	—	—	—	—	—	—	—	—
6/30	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注) ●感染好適日、○準感染好適日

※ ブラスタムについて

ブラスタムとは、アメダスの気象データを用いて、葉いもちの感染に好適な条件であったかどうかを広域的に判定するシステムである。いもち病は感染後、発病するまで約1週間かかるため、感染好適日が広域に出現してから、約1週間後に広域に新しい病斑が確認できる。

Ⅳ 技術対策

1 中干し・水管理

(1)適期に中干しを行う

現時点で茎数が十分に確保されているにもかかわらず、中干しが実施されていない水田が散見される。そのような水田では、根傷みによると見られる下葉の変色が確認され、ほ場に入るとガスが沸く状況である。

コシヒカリ、ひとめぼれの早生品種は近く幼穂形成し、要水量が飛躍的に大きくなる生育段階に入る。幼穂形成期以降に水を切らすことはできないので、現在が中干しをする最後のチャンスである。

(2)中干しの効能

落水による有機酸や硫化水素等の水溶性有害物質の除去、土壌への空気の供給による土壌還元の抑制などにより、根の健全化や無効分げつの発生抑制、下位節間の伸長抑制の効果がある。また、土壌を硬くすることで収穫時の機械作業に備える効果がある。

中干しを行わないと、根の活力が低下することにより、高温登熟に耐えられなくなることが危惧される。また、中干しの遅れは早期倒伏につながる。必ず適期に中干しを実施すること。

さらに、平成26年の調査では中干しを適正に行うことにより、籾数が適正化され、品質や食味が向上することも改めて確認されている。

(3)中干し中にいもち病が発生した場合

中干し中に、いもち病の発生が見られた場合は、直ちに入水し、ケイ酸吸収を促す。なお、上位葉に急性病斑が見られる場合は治療効果を有する薬剤で直ちに防除する。

(4)ひとめぼれの品質向上のために

近年ひとめぼれの品質が低下している。対策として乳白米の発生を軽減するための籾数制御があげられ、そのためには適正な中干し(中干し開始時期を遅くしすぎない、中干し期間を十分にとる)を行うことが重要である。

(5)中干し後の水管理

中干し後は、いきなり湛水せず、走り水を行った後、ゆっくりと給水し、土を湿潤状態に保ち根の活性維持に努める。2～3日走り水で慣らした以降は間断灌漑で(3日入水、2日干す等)管理する。

2 雑草対策

田植え後に水深を確保できず、除草剤の効果が不十分となっている水田が散見される。雑草を取りこぼした場合、後期除草剤散布により対応する。

このとき、ベンタゾンを含む粒剤と液剤は落水処理する。それ以外の除草剤は湛水散布する。シハロホップブチルを含む粒剤は茎葉吸収を促すため深水とする。

3 病虫害防除

(1)いもち病

○置き苗は、本田のいもち病の伝染源となるため、早急に処分する。

○「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「きぬむすめ」などの本病に弱い品種の栽培、窒素肥料の多施用、遅植えなどの条件では特に発生しやすいため、注意する。

○育苗箱施用剤を使用しても十分な効果が得られない場合があるため、ほ場の見回りなどを行い、早期発見に努める。

○本田施用粒剤(オリゼメート粒剤等)を使用する場合は、予防防除が基本であり、発生後では十分な効果が得られない。なお、粒剤を使用する場合は、各薬剤の使用基準を確認して湛水散布を行う(湛水散布にあたっては、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項などを確認して、止水期間を少なくとも1週間とするとともに、農薬の流出を防止するために必要な措置を講じるように努める)。

○本田において上位葉に急性型病斑がみられる場合には、治療効果を有する粉剤、水和剤などを散布し、その後は病勢に応じて追加防除を行う。

○降雨が続く場合は雨の止み間に防除を行い、適期を失しないようにする(粉剤散布後から降雨が3時間程度なければ防除効果は十分にある)。

○平成30年からストロビルリン系薬剤耐性菌の広域発生がみられなかった地域では、本系統薬剤の本田地上散布剤及びべり防除剤の再使用が可能である。ただし、耐性菌の再発生を防ぐために、本系統薬剤の同一年における連用と採種ほ場及びその周辺ほ場における使用を控える。

○防除にあたっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。

4 穂 肥

早い田植えの早生品種で幼穂形成期にさしかかり順次穂肥施用時期となるため、品種・生育量を確認しながら適正かつ積極的に施用する。1回しか出来ない場合、第2穂肥は必ず施用すること。

(1)「ひとめぼれ」「コシヒカリ」「星空舞」の穂肥の考え方

施用時期が早いと倒伏の助長と玄米品質の低下、遅いと食味低下や収穫時に青籾が残り刈り遅れを助長するため、施用に当たっては、特に葉色・草姿の観察を行い、施用時期・施用量を決定する。

(2)「きぬむすめ」「日本晴」の穂肥の考え方

「コシヒカリ」に比べて倒伏しにくく、耐肥性も強いため、「コシヒカリ」の感覚で遅い時期に少量穂肥を施用すると収量品質が大きく低下する。第1穂肥で十分な籾数を確保し、第2穂肥で登熟期間に必要な肥料分を補給することが収量・品質向上のポイントとなる。

「日本晴」については、平成26年に農業試験場において、穂首分化期追肥の有効性が確認されている。(出穂前32日頃に窒素成分で2kg/10a追肥することにより7%増収)是非行って増収を目指して欲しい。

(3)第1穂肥ができない場合であっても、第2穂肥は積極的に施用。

高温年では、稲体栄養の呼吸消耗が盛んになり、葉色が早く低下する。登熟期間に光合成能力と稲体の活性を高め、籾への養分転流を促進し、白濁未熟粒を軽減するために第2穂肥の施用が重要である。第2穂肥

の施用時期は、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」は出穂前10日(葉耳間長0cm時)、「きぬむすめ」「日本晴」では、葉色を極端に低下させないため第1穂肥の10日後に施用するため、出穂前15日(葉耳間長—10cm時)である。

なお、適正時期、適量の施用であれば食味低下の心配はなく逆に玄米の充実度を向上させる効果が期待できる。

穂肥の施用時期・施用量の目安

☆出穂までの日数はその年の気象条件等により大きく変わるため、幼穂長による判断が原則。

品 種	回数	施用時期	施用量(10a当たりの窒素成分量)
ひとめぼれ	第1回	幼穂長3～5mm (出穂前18～20日)	葉色4.0(SPAD34)以下 2kg
	第2回	第1回目穂肥の10日後	葉色4.5(SPAD37)以下 2kg
コシヒカリ	第1回	幼穂長8～10mm (出穂前15～18日)	葉色4.0(SPAD35)以下で窒素成分 2kg ※葉色が濃い場合は単葉葉色4.0以下になるまで待つて施用する。 ※コシヒカリについて、生育量が多い場合は以下の表を目安に施用時期を遅らせる。 (遅らせる日数)
	第2回	第1回目穂肥の8日後	葉色3.5(SPAD32)以下 2kg 葉色3.5～4.0(SPAD32～35) 1kg 葉色4.0(SPAD35)以上 無施用
星 空 舞	第1回	幼穂長8～10mm (出穂前15～18日)	葉色4.0(SPAD35)以下で窒素成分 2kg 葉色4.0(SPAD35)以上 無施用
	第2回	第1回目穂肥の8日後	葉色3.5(SPAD32)以下 2kg 葉色3.5～4.0(SPAD32～35) 1kg 葉色4.0(SPAD35)以上 無施用
きぬむすめ 日 本 晴	第1回	幼穂長1mm (出穂前25日)	葉色4.5(SPAD38)以下 3kg
	第2回	第1回目穂肥の10日後	葉色5.0(SPAD41)以下 2kg

注) 単葉葉色は最上位の完全展開葉を測定する

(4)基肥一発肥料で葉色が低下した場合

基肥一発肥料、育苗箱専用肥料等により一発型施肥を行ったほ場では、高温年には肥料成分が早期に溶出し穂肥としての効果が期待できない場合があるので葉色に応じて穂肥を施用する。

第2穂肥の頃まで待っても葉色が極めて薄い場合は、

(「コシヒカリ」SPAD 値 32 以下、「ひとめぼれ」同37以下「きぬむすめ」同 41 以下)

「コシヒカリ」「ひとめぼれ」は窒素 1kg/10a 程度、

「きぬむすめ」「日本晴」は窒素 2kg/10a 程度

の追肥を行う。これにより、白濁粒の発生が軽減し品質が向上し、かつ食味も低下しない試験事例がある。

葉色低下の際には診断に従って追肥を行う。

但し、元肥一発肥料の「星空舞」は、原則として穂肥は施用しない。

田植時期別の幼形期予測について（令和3年6月29日現在）

令和2年度から、鳥取県産米改良協会では、鳥取県農業試験場の研究成果を活用し、生育予測について情報提供を行っています。（毎週水曜日更新予定）

令和2年度から幼形期予測については、発育指数を用いた手法で研究を行ってきました。令和3年度も引き続き、情報提供を行い、ご意見・ご要望をいただきながら、今後の改善に繋がっていききたいと思います。

【情報を活用する上での注意点】

○ここでの幼形期は、発育指数で、幼穂長1mmとなる日のことです。

○1kmメッシュの気温を用いて、きぬむすめ生育予測モデル式に当てはめて幼形期を予測しています（現地での誤差確認を行っています、予測日の推定精度は概ね±2日以下となっています）。

○あくまでも目安であり、地形、かんがい水温などのほ場条件、水管理、施肥などの栽培条件等によっては誤差がでることがあります。

【現時点での状況】

○農試作況田の直近5年間の平均幼形期と比較した結果は、以下のとおりです。

農試作況田（標高9m）での予測

		R3予測日	直近5年平均	備考
ひとめぼれ	5月11日移植	6月30日	7月1日	1日早い
コシヒカリ	5月11日移植	7月5日	7月5日	平均並み
	5月25日移植	7月15日	7月12日	3日遅い
きぬむすめ	5月25日移植	7月26日	7月25日	1日遅い

【ひとめぼれの予測幼穂形成期】

標高	田植時期			
	4月30日	5月10日	5月20日	5月30日
0～49m	6月24日	6月28日	7月5日	7月11日
50～99m	6月26日	6月29日	7月6日	7月12日
100～149m	6月27日	6月30日	7月7日	7月12日
150～199m	6月29日	7月1日	7月8日	7月13日
200～249m	6月30日	7月3日	7月9日	—
250～299m	7月2日	7月4日	7月10日	—
300～349m	7月3日	7月5日	7月11日	—
350～399m	7月4日	7月6日	7月12日	—
上記予測日の範囲	±3日	±3日	±2日	±2日

【コシヒカリの予測幼穂形成期】

標高	田植時期				
	4月30日	5月10日	5月20日	5月30日	6月10日
0～49m	6月28日	7月3日	7月11日	7月17日	7月21日
50～99m	6月30日	7月4日	7月12日	7月18日	7月21日
100～149m	7月2日	7月5日	7月13日	7月18日	—
150～199m	7月3日	7月7日	7月14日	7月19日	—
200～249m	7月5日	7月8日	7月15日	—	—
250～299m	7月6日	7月9日	7月16日	—	—
300～349m	7月8日	7月10日	7月17日	—	—
350～399m	7月9日	7月11日	7月17日	—	—
上記予測日の範囲	±3日	±3日	±2日	±2日	±1日

【きぬむすめの予測幼穂形成期】

標高	田植日				
	5月10日	5月20日	5月30日	6月10日	6月20日
0～49m	7月15日	7月22日	7月28日	7月31日	8月5日
50～99m	7月16日	7月23日	7月29日	7月31日	8月6日
100～149m	7月17日	7月23日	7月29日	—	—
150～199m	7月18日	7月24日	7月29日	—	—
上記予測日の範囲	±2日	±2日	±1日	±1日	±1日

【その他】

- ・幼形期予測は、発育速度を算出する生育予測モデル式(堀江・中川1990)を参考に行っている。
- ・用いた気象データは、予測当日まではアメダス観測地点の実測、翌日～1ヶ月先までは気象庁の1ヶ月予報、1ヶ月先以降は平年値データを1kmメッシュごとに展開したデータを活用。
- ・5月移植の予測は稚苗移植、6月移植は中苗移植で算出。
- ・出穂期予測に必要な気象データは、農研機構と㈱ライフビジネスウェザーが共同開発し、㈱ライフビジネスウェザーが提供するメッシュ農業気象システムの気象データを用いています。
- ・幼形期を予測したいほ場の標高は、地図等で検索してください。

【星空舞の予測幼穂形成期】

- ・星空舞の幼穂形成期は、コシヒカリの幼穂形成期の5日後を目安にしてください(5月下旬移植の場合)。

田植時期別の出穂期予測について（令和3年6月29日現在）

令和2年度から、鳥取県産米改良協会では、鳥取県農業試験場の研究成果を活用し、幼穂形成期、出穂期、刈取適期の予測について情報提供を行います。（毎週水曜日更新予定）

出穂期、刈取適期の予測を行いますので、追肥・出穂前後の防除等の作業計画、適期収穫を目指した収穫作業計画の参考として活用してください。

なお、収穫適期予測については、8月上旬から提供予定です。

【情報を活用する上での注意点】

○出穂期は、ほ場の約50%が出穂している状況のことです。穂揃期と異なります。

○アメダスの実測値及び1ヶ月予報値を基に各1kmメッシュの気温を推定し、この数値を品種ごとの生育予測モデル式に当てはめて出穂期を予測しています。（現地での確認を行いました、予測日の推定精度は概ね±2日以下となっています）

○あくまでも目安であり、地形、かんがい水温などのほ場条件、水管理、施肥などの栽培条件等によっては誤差がでることがあります。

【現時点での状況】

○5月11日移植の「ひとめぼれ」は、農試作況田の直近5年間の平均出穂期と比較して、平均並みです。

○「コシヒカリ」は、5月11日移植で1日早く、5月25日移植で1日遅れています。

農試作況田（標高9m）での予測

		R3予測日	直近5年平均	備考
ひとめぼれ	5月11日移植	7月23日	7月23日	平均並み
コシヒカリ	5月11日移植	7月26日	7月27日	1日早い
コシヒカリ	5月25日移植	8月4日	8月3日	1日遅い
きぬむすめ	5月25日移植	—	8月14日	—

【ひとめぼれの予測出穂期】

標高	田植日			
	4月30日	5月10日	5月20日	5月30日
0～49m	7月17日	7月21日	7月27日	8月2日
50～99m	7月19日	7月22日	7月28日	8月3日
100～149m	7月21日	7月23日	7月29日	8月3日
150～199m	7月22日	7月25日	7月30日	8月4日
200～249m	7月24日	7月26日	7月31日	—
250～299m	7月25日	7月27日	8月2日	—
300～349m	7月27日	7月29日	8月3日	—
350～399m	7月28日	7月30日	8月4日	—
上記予測日の範囲	±3日	±3日	±2日	±2日

【コシヒカリの予測出穂期】

標高	田植日				
	4月30日	5月10日	5月20日	5月30日	6月10日
0～49m	7月21日	7月25日	7月31日	8月6日	8月9日
50～99m	7月23日	7月26日	8月1日	8月6日	8月9日
100～149m	7月24日	7月27日	8月2日	8月7日	—
150～199m	7月25日	7月28日	8月3日	8月8日	—
200～249m	7月27日	7月29日	8月4日	—	—
250～299m	7月28日	7月30日	8月5日	—	—
300～349m	7月29日	7月31日	8月6日	—	—
350～399m	7月30日	8月1日	8月6日	—	—
上記予測日の範囲	±3日	±2日	±2日	±1日	±1日

【きぬむすめの予測出穂期】

標高	田植日				
	5月10日	5月20日	5月30日	6月10日	6月20日
0～49m					
50～99m					
100～149m		7月中旬 公開予定			—
150～199m					—
上記予測日の範囲					

【その他】

- ・出穂期予測は、発育速度を算出する生育予測モデル式(堀江・中川1990)を参考にして出穂期予測を行っています。
- ・用いた気象データは、予測当日まではアメダス観測地点の実測、翌日～1ヶ月先までは気象庁の1ヶ月予報、1ヶ月先以降は平年値データを1kmメッシュごとに展開したデータを活用。
- ・5/10～5/30の予測は稚苗移植、6/10は中苗移植で算出。
- ・出穂期予測に必要な気象データは、農研機構と㈱ライフビジネスウェザーが共同開発し、㈱ライフビジネスウェザーが提供するメッシュ農業気象システムの気象データを用いています。
- ・出穂期を予測したいほ場の標高は、地図等で検索してください。

【星空舞の予測出穂期】

- ・星空舞の出穂期は、コシヒカリの出穂期の5日後を目安にしてください(5月下旬移植の場合)。

【参考1】穂肥時期の目安

【第1穂肥の時期】

- 第1穂肥の時期は、幼穂長で判断する。幼穂形成期予測の時期が近づいたら実際は場で幼穂長を確認すること。
- 水口を避け、畦際から4条以上ほ場内に入って(周縁効果も避け)平均的な株の最長茎について計測する。株による変動もあるため複数茎むいてみること。



図1:出穂25日前

**きぬむすめ
穂肥1回目時期**

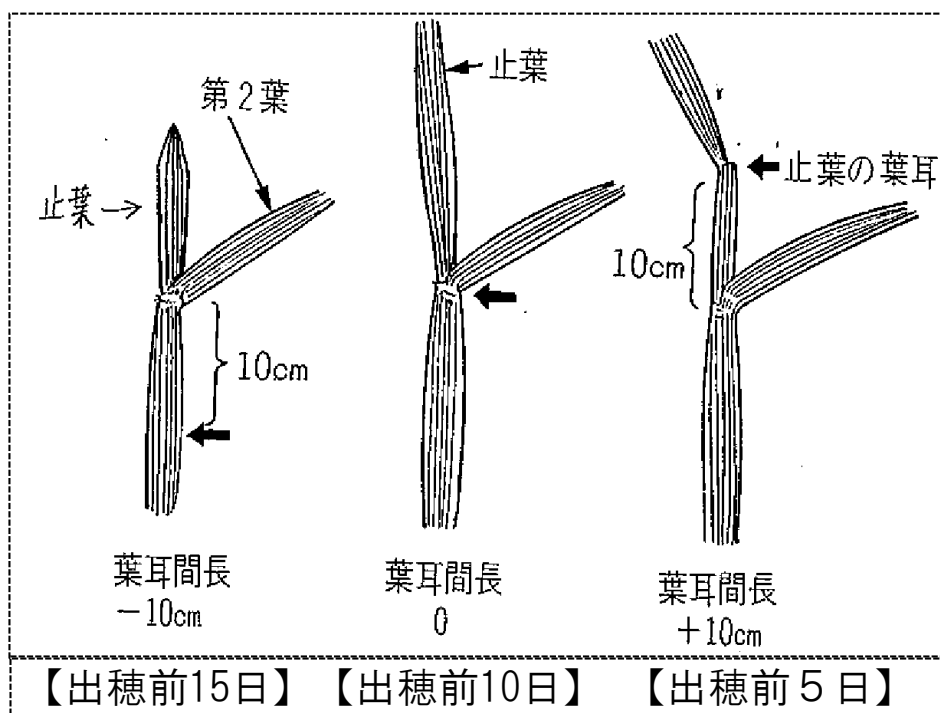


図2:出穂18日前

**コシヒカリ・星空舞
穂肥1回目時期**

【第2穂肥の時期】

- 幼穂長ではなく、外観、具体的には葉耳間長で出穂前日数を判断し、第2穂肥施用時期を決定する。
- 当該葉耳間長の茎が全体の8割程度となったら第2穂肥施用時期とする。
- 例) コシヒカリにおいては、葉耳間長0cmの茎が全体の8割となった頃が第2穂肥の時期
- 第1穂肥の施用後日数の判断でもよい
- 例) きぬむすめは、第1穂肥を施用してから10日後に第2穂肥を施用する。



**きぬむすめ
穂肥2回目時期**

**ひとめぼれ・コシヒ
カリ・星空舞
穂肥2回目頃の時期**

引き続き、農作業安全と熱中症防止に留意しましょう



農作業中の
熱中症が増加

熱中症に注意

農作業中の熱中症を防ぎましょう



鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

事務局

鳥取県農林水産部経営支援課

電話0857-26-7327

JA鳥取県中央会農業くらし対策部

電話0857-21-2607

農作業中の熱中症対策チェック表

☒ 高温時の作業を避けます

△最高気温30℃以上が予想される場合、**熱中症警報**が出されます。

△県の「あんしんトリピーメール」や農林水産省の「MAFFアプリ」に登録するとスマートフォンに情報が提供されます。

☒ こまめに休憩し、水分を摂取をします

●農作業には必ず水、氷（保冷剤）や濡れタオルなどを持参します。

●涼しい日陰等で休憩し、20分ごとにコップ1～2杯、水分を補給します。

※大量に汗をかいた場合には塩分の補給も同時に行います。

☒ 涼しい服装で、適宜マスクを外します

●農作業の際は帽子を着用し、汗を吸いやすく乾きやすい素材の衣服を着用します。

●屋外作業では、人と十分な距離（2m以上）が確保できるときはマスクを外して行います。

☒ 日頃から健康管理を行います

●「**おしっこカラーチャート**」で自身のカラダの脱水状態を確認して、体調管理を行います。

△睡眠不足、体調不良、前日などの飲酒、朝食の未摂取、感冒などによる発熱、下痢などによる脱水などは、熱中症の発症に影響を与えるおそれがあります。

熱中症に注意!!

おしっこカラーチャート

おしっこは、体の情報が盛り沢山!!

おしっこの色は何番ですか？

もしも**3番以上**の場合は、

「**水分と塩分の補給**」が必要です

尿の色		からだの状態と対応	
1		正 常	水分補給は、 十分です。
2			予防のために 計画的に水分補給をしましょう
3		注 意	脱水症への 傾向があります。
4			補給の頻度を増やすこと
5			脱水症です。
6		危 険	水分補給が必要です。 口から補給できますか？
7			重度の脱水症です。 危険な状態です。
8			直ぐに病院へ

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

協議会からのお知らせ

【農作業安全研修の実施希望について】

県内では毎年死亡事故を含め農作業事故が発生しており、特に高齢者による事故が多く発生しています。

このため、協議会では令和3年度から地域協議会、県協議会が協力して、**集落営農組織等を対象にした研修（対話型研修）の推進**を図り、生産者の安全意識の向上と安全作業の取り組みを一層進めることとしました。

研修を希望される、また詳しく知りたい方は県協議会事務局へお問い合わせください。

<対話型研修とは>

日頃危険と感じている作業・機械操作・施設等について、生産者自らが組織の仲間と話し合いながら情報共有します。さらに話し合った内容に基づいて、組織で取り組むべき安全行動を「安全宣言」として定めて、農作業安全のレベルアップを図るきっかけとしてもらうものです。

※令和3年度は
県内6か所程度
で実施予定

